

平成27年度 第3回総合教育会議議事録

日 時：平成27年12月22日（火） 午前10時00分～午前11時00分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井 利克、名張市教育委員会 福田 みゆき委員長、松尾 真由美委員、瀧永 善樹委員、川原 尚子委員、上島 和久教育長

《事務局》企画財政部長 森岡、総合企画政策室長 山下、総合企画政策室 今村

教育委員会事務局次長 高嶋、教育総務室長 内匠、教育総務室副室長 福本

○市長あいさつ

おはようございます。年の瀬まであと1週間余りの何かと気ぜわしい季節を迎える中、お繰り合わせいただきました委員の皆様方にまず御礼を申し上げたいと思います。また、皆様には、日頃から名張市教育の充実あるいは活性化のために、ご尽瘁・ご高配を賜り、重ねて御礼を申し上げます。

さて、これまで教育委員としてお世話をお掛けしておりました山本智子委員が任期満了となり、あらたに近畿大学より川原尚子先生をご推薦いただきました。川原先生には、異なった角度から、名張市教育にご指導いただければと思っております。どうかよろしく願います。

ご案内のとおり、名張市は地方創生と一億総活躍、そして新福祉ビジョン、この3つによりまして、今後2年程度で躍進の土台づくりの目途をつけたいと考えておりますが、その中でも教育を大きな柱に据えております。

名張は全国の倍のスピードで高齢化が進んでおり、かねてから“生涯現役のまち”をつくる、或いは、“産み育てるに優しいまち”をつくっていくことに力点を置き、市政運営をまいりました。その甲斐ございまして、“生涯現役のまち”につきましても、健康寿命が伸び、全国でもトップレベルとなっております。また、“産み育てるに優しいまち”につきましても、昨年、名張版ネウボラの取組を少子化担当大臣が視察に来られ、全国150か所でモデル地域をつくり、名張版ネウボラが推進されているところでございます。この流れを加速化していくには、教育へきっちり繋いでいく必要があります。今後は、その部分に力点を置いていかなければならないと思っております。

小中一貫をはじめとする特色ある教育化に向けては、文科省や県教委と連携・協働しながら進めていきたいと考えているところですので、引き続きのご指導・ご支援、ご協力をよろしく願います。

今回の第3回総合教育会議では、名張市教育大綱（素案）のご審議をいただくわけですが、どうかよろしく願います。

○委員紹介

※ 企画財政部 総合企画政策室より、山本智子委員が任期満了により退任され、新たに川原尚子委員が就任された旨説明。

○協議事項

1. 名張市教育大綱（素案）について

※ 企画財政部 総合企画政策室より資料説明

（議長）

説明は以上でございますが、ご意見・ご質問等いかがでしょうか。

（教育委員長）

「5 位置づけ」の部分で、「名張市教育大綱」の下に、教育委員会等で策定する個別分野の計画

が5つあり、この5つに繋がるのが「6 基本方針」であると考えますが、どのように繋がっているのか確認したいと思います。

それから、「6 基本方針」で、スポーツに関する部分を「3 豊かな心と健やかな体の創造」に新たに増やしていただきました。しかし、主語が「市民の誰もが」となっており、他の箇所の「市民が」という表現と異なっていると感じました。

また、「3 豊かな心と健やかな体の創造」の中にある、“いきいきと暮らせるまちを実現します”と“はつらつとした暮らしが営める生涯スポーツ”は、同じような表現が続いており、気になりました。

(事務局)

まず、「6 基本方針」の件ですが、5つの個別分野の計画の基となる大綱、その基本方針という位置付けをしております。それから、「3 豊かな心と健やかな体の創造」における個別項目の表現ですが、総合計画や子ども教育ビジョン、スポーツ推進計画の文言を引用していることから、よく似た表現が並んでおりますので、検討・調整したいと思います。

(議長)

「3 豊かな心と健やかな体の創造」内の、“いきいきと暮らせる”や“健康ではつらつ”という文言は、スポーツ推進計画で表現されているのですか。

(事務局)

はい。

(教育委員長)

健康寿命が伸びていますが、行政が色々仕掛けをして更に伸ばしていくことには限界がきていると思います。自らが情報収集し、自分に合ったやり方で健康づくりを進めていく、ヘルスリテラシーの関係にもなりますが、そのようなことを目指す必要もあると思っています。一人ひとりが自覚ある、自ら活動ができる人材の養成や、地域の中での指導者の養成が福祉分野では求められています。

(教育委員長)

生涯スポーツについてもそうだと思います。

(教育長)

福祉分野でも、まちづくりでも同様で、一生懸命頑張って活発なところもあれば、そうでないところもあります。将来を見据え、継続できる体制を考えないと、更に充実していけるのか疑問に感じる部分も出てきます。色んな分野で指導者と市民の皆さんがマッチしてやっていく、その意識が非常に大事だと思っています。スポーツ、教育、まちづくりなど、きちんと将来を見据えて取り組んでいくという基本的な考え方は同じだと思いますので、上手く対応していければと考えています。教育大綱としては、5つの個別分野の計画を組み合わせて、単なる貼り付けではなく、どのようなかたちが相応しいか、少し手直しが必要であると感じました。

(議長)

生涯学習でも、与えられるということではなく、自発的に自ら学ぶ意識をどのように醸成していくか。健康づくりもそうであり、そのような人材を養成していくことについて、表現しておく方が良いでしょうか。

(教育委員長)

行政から与えられ、それで動くということよりも、まちづくりでもそうですが、市民自らが自発的に動き、それで学ぶことが大切と考えます。

(議長)

行政としては、市民の自発的な活動をいかにサポートしていくかというスタンスに変えてきています。教育も自ら自発的に学んでいく、自発的に健康づくりをしていく、また、そのような人材を育成するなど、そのような考えを持っています。

(教育長)

「5 未来への創造」で、“自主自立し、いつまでも暮らし続けることのできるまち”とありますが、いつまでも暮らし続けるだけでなく、自ら学び続けるという表現を入れ、まとめていくかたちにしてはどうでしょうか。

(教育委員長)

一部の市民の方は、既に自発的に活動されています。

(議長)

そうですね。自発的に実践されていますし、そのようなグループを作り活動されています。そのような人材を養成していく、何か表現できないか検討してもらいたいと思います。

他にいかがでしょうか。

(教育委員)

総合計画とのリンクは感じておりますが、重なる部分があると感じています。例えば、文末が“まちを実現します”で終わっており、まちづくりのための方針のように受け止めてしまいます。“文化を創造します”、“未来を拓きます、”育みます“といった終わり方など、教育をイメージする表現に変えていただく方が良いと感じました。

(議長)

事務局どうですか。

(事務局)

“まちを実現します”で終わっている文章は、総合計画から引用しています。引用を控えるのか、文末の表現を調整するのか、検討いたします。

(教育委員長)

総合計画を教育に繋げていくという趣旨で、文章表現を少し変更いただくことで良いと考えます。

(教育委員)

方向性や内容は、この通りだと思います。

(事務局)

分かりました。

(議長)

他にどうですか。

(教育委員)

基本方針について、前は柔らかいという印象を持ちましたが、今回は全て“創造”でまとめられ、言葉としては良いのですが、少し硬くなったという印象を持ちました。

それから、「2 市民文化の創造」にある“豊かな地域資源を守り生かしながら、なばりの未来を拓きます”と、「5 未来への創造」にある“若者が住んでみたい、愛着を抱きいつまでも住み続けたいと思うまちを実現します”が、前回の会議資料から入れ替わっていますが、どのような意図で入れ替えたのでしょうか。

(事務局)

説明不足で申し訳ございませんでした。意図としましては、“地域資源”という言葉から、文化・伝統・歴史等を“地域資源”と捉えた中で、「2 市民文化の創造」に移したところです。また、基本方針の各タイトルの見直しを図り、「5 未来への創造」と変更したことにより、“若者が住んでみたい、愛着を抱きいつまでも住み続けたいと思うまちを実現します”は、そちらに定める方が、より馴染むと判断したことから最後の項目に移したところです。

(教育委員)

分かりました。人口減少や高齢化など、いかに食い止めようとしているのか考えとして理解させていただきます。内容的には良いと思います。以上です。

(議長)

他にいかがでしょうか。

(教育委員)

「6 基本方針」にある文言からは、まちづくりの基本方針なのか、人材育成の基本方針なのか、少し理解しづらい文言も見受けられました。

現代世代の高齢化を迎える方々、それから将来世代の子どもさん方、どちらを対象とした話しかも非常に興味があり、「1 生涯現役社会の創造」は、どちらかというところと現在、将来にわたってという長期的なビジョンと思いますが、将来世代の子どもたちと考えたときには、「4 生きる力を育む教育の創造」、また「5 未来への創造」といったことでは将来の話、そういうことでは比較的将来の人づくりの重みが弱い印象も受けました。

次に、基本方針で5つの方針がございますが、その実現には予算も必要と思います。中には市民の協力、地域の方の実践を踏まえないと実現しないものなど、財政だけではカバーできない様々なことが背景にあると思いますが、達成が非常に困難なもの、比較的達成しやすいもの、その辺りの重みづけが5つの方針で何かあるようでしたら、教えてください。

3つ目ですが、教育基本法第17条に規定する教育振興基本計画を参酌した中で、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興と、この3つの事柄に関わる総合的な施策の大綱を定めるという流れと理解していますが、今回、「名張市教育及び文化の振興に関する大綱」となっております。学術という文言がどこかに合わさっているのか、また、基本方針5つの中にはどういったところで学術といったことが反映されているのか、その辺りを教えていただければと思います。

(議長)

1つ目に、これは教育大綱か、まちづくり大綱という意見でした。最終的には、“教育がまちづく

りに果たす役割”になってくると思いますが、“まちを実現します”などの表現の見直しとも関連してくると思います。

(事務局)

先にいただいた意見も含めて、トータルで考えさせていただきます。

(議長)

2つ目の予算の関係ですが、大綱を具現化していく計画は既に持っています。計画に基づく予算付けとなっていくこともあり、本大綱での予算等の話しは難しい面があります。

(教育長)

国の教育振興計画でも同様のことが言われています。基本方針に基づく予算的なことに関心はあると思いますが、大綱内に入れることは難しいと思っています。

(議長)

3つ目の学術についてですが、これは非常に深いものと思っています。教育と学術、それぞれの範囲等どのように整理するのかということになります。

(教育長)

学術となると、大変エリアが広がってきます。考えていく必要はありますが、もう少し平易なかたちにし、学術は外しても良いと考えています。

(議長)

高等教育機関では学術は入っていますが、小中学校の範囲でどうかということだと思います。

(教育委員)

学術についても様々な定義があると思いますので、名張市としての定義で、日頃から地元の方が郷土を学ぶなど、学術への関心を高める、そういったことを1つの柱にしても良いのではないかと思います。

(教育委員長)

郷土を学ぶということも学術と捉えられるのでしょうか。例えば、先日開催されました名張カレッジで、市民の方が質問され、講師の方と違う意見や考えを述べられました。名張カレッジという生涯学習の行事がきっかけで歴史を深く勉強されたようでした。そういったことも学術として捉えられるのでしょうか。

(教育長)

皇学館大学の名張のふるさと講座、また三重大学の公開講座を開催したのですが、募集定員を超える応募がありました。市民の皆さんは自ら学ぼうという意欲が非常に強く、これを上手く生かすことで更に名張は発展するのではないかと講師からも言われました。学術から発展することは、考えようによっては色んな面があります。

(議長)

これまで企業勤めで頑張ってきた人たちは、自分が住んでいるこの地のことについて知りたいと集まってきてくれるのでしょうか。そんな中で、地域にデビューしたい、何かきっかけがあればとい

う思いを持ってきているのかもしれませんが。

(教育長)

住むまちなので、熟年の方、リタイヤされた方が勉強しながら良いところを認識したいと。今度は、勉強された皆さんが、子どもたちや地域の公民館の講座で、そのことを生かしていただきたいし、そのような場をつくってもらいたいと講座の最後の挨拶でも申し上げたところです。

この教育大綱の中に、子どもから大人、高齢者も含め、どのようにやっていけば良いかという具体的内容があり、“このように学習することで次はこうなる”という繋がりになれば、素晴らしいと思います。

(議長)

学ぼうとする意欲のある方が多いと感じます。また、地元の方よりも転入いただいたの方が圧倒的に多いと思います。

(教育委員)

12月初旬にインドネシアにある美術大学から、国際交流ということで学生16人・教員1人の計17人の一行を受け入れました。その折に、忍者が使う手裏剣を折り紙で作り、その作業を通じて、チームでの生産効率を上げるプロダクトマネジメントの授業を行いました。その時に、伊賀忍者のVTRをYouTubeで見てもらい、日本の伝統や忍者の存在など非常に外国人の興味や関心を引く授業を提供することができたと思っております。地域文化といった交流も今後考えていけるのではないかと思いますし、名張には非常に豊富な資源、自然資源や文化資源があると思います。

(議長)

色々なご意見をいただきました。できる限りその思いを盛り込めるような工夫をしてもらいたいと思います。

(教育長)

学術の件につきましては、解釈の仕方もたくさんあります。直接的には入っていないかもしれませんが、広い意味では地域との関係や名張の歴史・文化も含めて織り込んでおりますことから、説明だけきちんとできれば良いのかなと考えています。

(議長)

ほかにどうですか。

(教育長)

先程他の委員からも意見がありましたが、教育大綱ですので、もう少し教育を主に置いてもらいたいと思います。そのような観点から、「5 位置づけ」の2段落目ですが、「ばりっ子すくすく計画」と「名張市教育振興基本計画『子ども教育ビジョン』」を入れ替えてもらい、また、同ページの図表にある「名張市教育振興基本計画『子ども教育ビジョン』」の配置も見直してもらおう方が分かりやすくなると思います。

また、「6 基本方針」ですが、「3 豊かな心と健やかな体の創造」で、“誰からも選ばれる”という表現がありますが、全国発信し多くの方に名張に転入いただきたい思いは理解しますが、果たしてどうかと思います。それから、「4 生きる力を育む教育の創造」で、“若い世代が安心して働き、教育がしやすい”とありますが、市が勝手に教育しやすいと、誤って捉えられないかと思うので、教育の前に“子育て・教育”という文言を入れてはどうかと思いました。最後に、「5 未来へ

の創造」で、「地域間のネットワーク」とありますが、私は“世代間”、子どもと大人、高齢者という“世代間”や“年代間”という表現も入れてもらいたいと思いました。

(議長)

事務局として、今後、どうですか。

(事務局)

本日頂戴しました、まず大きく1つが自ら自発的に活動して学ぶという考え方をこの教育大綱のいずれかの場所に盛り込んでいく、また、方針内の表現ですが、総合計画と基本的な方向性は整合を取りながら、より教育大綱に馴染む表現に、文言修正も含めて、教育委員会事務局と調整して修正したいと思います。

教育大綱は、2月中旬に庁内報告を行い、3月定例会の施政方針の中で公表していきたいと考えております。大きく修正が必要と思いますので、再度皆さんにお集まりいただくことも視野に入れながら、今後スケジュールを組みたいと思います。

(教育長)

基本は本日の素案に沿っていただき、今後は、企画財政部と教育委員会事務局で詰めてもらいながら、本日の意見等を踏まえ修正してもらいたいと思います。

最後に、せっかくスポーツのことを基本方針に定めていますので、例えば、「1 はじめに」の中で、「教育及び文化・スポーツ」とスポーツを付け加えることも検討してもらいたいと思います。

(議長)

本日も貴重なご意見をいただきました。できる限り委員皆さんの思いが反映されるような大綱にして参りたいと思っておりますので、引き続きご指導賜ればと思います。

これで第3回の総合教育会議を終わります。ありがとうございました。